

令和4年度 国東市：大分県学力定着状況調査結果（中学校：社会）

1 結果のポイント（数値は正答率）

全問題数：30問（知識21問、活用9問）

「教科全体」54.8（「知識」57.8、「活用」47.7）で、大分県と比較して「教科全体」 -2.5 【R3: -1.2 】（「知識」 -2.6 【R3: -2.0 】、「活用」 -2.3 【R3: $+0.3$ 】）であったことから、前回よりも「教科全体」「知識」「活用」ともに県平均を下回っている。

解答形式では「選択」「短答」「記述」ともに県平均を下回った。領域別では「地理」「歴史」ともに県平均を下回り、観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」ともに県平均を下回った。

目標値との比較に関しては、「教科全体」「知識」「活用」「解答形式」ともに目標値を下回っており、「観点別」では「知識・技能」は目標値を上回っている。領域別では「地理」「歴史」ともに目標値を下回っている。

知識・活用	正答率		目標値
	国東市	大分県	
教科全体	54.8	57.3	56.5
知識	57.8	60.4	59.3
活用	47.7	50.0	50.0

解答形式	正答率		目標値
	国東市	大分県	
選択	58.2	60.2	59.2
短答	49.3	55.5	51.3
記述	24.6	26.4	35.0

領域	正答率		目標値	観点	正答率		目標値
	国東市	大分県			国東市	大分県	
地理	55.4	56.8	55.6	知識・技能	60.7	62.9	60.3
歴史	54.1	57.8	57.5	思考・判断・表現	47.1	49.9	51.5
				主体的に学習に取り組む態度	47.7	50.0	50.0

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

大問2 (2) 世界の姿<知識>

①趣旨 世界のさまざまな国の国旗の特色について理解している。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
正答 オセアニア (州)	37.2	40.5
ヨーロッパ (州)	37.2	32.5
北アメリカ (州)	4.9	3.8
南アメリカ (州)	3.8	2.3
アジア (州)	2.2	2.4
アフリカ (州)	4.4	4.7
上記以外の解答	7.1	10.9
無解答 (無記入の場合)	3.3	2.9

「オーストラリアの貿易相手国の変化」や「オーストラリアに暮らす移民の出身州別割合の移り変わり」に係る資料を読み取る学習をしていれば正答できる問題であるが、正答であるオセアニア州と誤答であるヨーロッパ州の反応率が同じである。

オセアニア州の貿易、多文化社会に関わる課題について、同一の事象に関する異種の資料（グラフと文章など）の情報を見比べたり結びつけたりして読み取る活動を日頃から取り組んでおく必要がある。

世界の各州の特色について、地図帳や教科書に掲載されている資料を授業で扱う際に、資料と資料の関連付けを意識させ、読み取った結果について、根拠をはっきりさせて表現させる活動を行うことが有効である。

大問4 (3) 世界の諸地域 <知識>

①趣旨 アフリカ州のモノカルチャー経済の課題について、資料をもとに考察している。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
1 1と回答しているもの	12.6	8.8
◎2 2と回答しているもの	62.8	70.2
3 3と回答しているもの	16.9	11.3
4 4と回答しているもの	7.1	8.9
それ以外	0.0	0.0
無解答	0.5	0.8

正答率が県平均よりも7.4ポイント下回っており、誤答である1・3ともに県の反応率を上回っている。

アフリカ州のモノカルチャー経済についての知識があれば正答できるが、平素から異なる情報を見比べ（時期や範囲の異なる地域の様子など）たり、結びつけ（地形条件と土地利用の様子）たりして読み取らせ、その結果を、根拠をはっきりさせて表現させる活動を行うことが有効である。

資料の読み取りについて、どの段階①複数の資料から条件に合致した情報を取り出す段階②取り出した情報を比較したり、傾向を抽出したりする段階③比較したり、抽出したりした結果等を関連付けて、条件に沿って考察し記述する段階でつまづいているかを実態把握し、支援・指導していく必要がある。

大問5 (3) 縄文時代～古墳時代 <知識>

①趣旨 古代文明の特色について理解している。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
1 1と回答しているもの	25.7	19.8
◎2 2と回答しているもの	43.7	49.1
3 3と回答しているもの	16.9	19.6
4 4と回答しているもの	13.7	11.1
それ以外	0.0	0.0
無解答	0.0	0.6

正答率が県平均よりも5.4ポイント下回っており、誤答である1・4ともに県の反応率を上回っている。

古代文明（エジプト文明・メソポタミア文明・インダス文明・中国文明）で使用された文字についての知識があれば正答できるが、古代文明が起こった場所や環境などに着目して課題を設定し、文明の特徴を比較したり、類似性など観点を定めて生産技術の発達、文字の使用など共通する特徴などに気付くことができる学習を位置づけ、考察した結果を表現する活動などを設定することが大切である。

大問6 (3) 飛鳥時代～平安時代 <知識>

①趣旨 墾田永年私財法の制定による社会の変化について理解している。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
◎1 1と回答しているもの	52.5	60.6
2 2と回答しているもの	9.3	7.6
3 3と回答しているもの	14.8	16.9
4 4と回答しているもの	23.0	14.0
それ以外	0.0	0.0
無解答	0.5	0.9

正答率が県平均よりも8.1ポイント下回っており、誤答である2・4ともに県の反応率を上回っている。

法令は各時代の社会の状況を反映していることから、各時代の法令とその法令が定められた時代に関連する複数の資料を組み合わせた授業を展開していくことで、時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力の育成につながると考えられる。さらに工夫していくことで、歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力の育成にもつながる。

大問7 (1) 中世の日本 <活用>

①趣旨 承久の乱について、複数の資料をもとに考察している。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
正答 (例) 幕府	39.3	46.6
後白河上皇	1.1	1.2
後鳥羽上皇	0.5	1.4
上記以外の解答	48.6	40.7
無解答 (無記入の場合)	10.4	10.1

正答率が県平均よりも7.3ポイント下回っている。正答(例)である「幕府」と解答せず、「北条政子」「北条義時」等の個人名での解答が県の反応率を上回っていることから、承久の乱後に「幕府」の勢力が西日本から東日本に拡大するという知識が「幕府」＝「北条政子」「北条義時」と個人名が先立って解答したことが考えられる。

複数の資料の読み取りについては、「この資料からわかることは何だろうか」「2つ(複数)の資料から何が言えるだろうか」と資料に対して生徒が「どのように見て」「解釈をして」「(見方、考え方)を働かせて」情報を取り出す活動の中で自分の考えを記述する時間を保障することが必要である。

また、資料から分かる事実について、グループ等の学習を通して、自分とは異なる視点から取り出した情報を得たり、自分の考えについて意見をもらったりする場面を設定した授業構成が必要である。

大問8 (1) 世界の諸地域 <活用>

①趣旨 ヨーロッパ州の農業について、資料をもとに考察している。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
◎1 1と回答しているもの	23.0	24.6
2 2と回答しているもの	28.4	26.1
3 3と回答しているもの	26.8	27.1
4 4と回答しているもの	19.1	19.0
それ以外	0.0	0.0
無解答	2.7	3.1

誤答が2・3・4に分散しており、正答率が県平均よりも1.6ポイント下回っている。

資料をもとに考察することについて、下記のどの段階でつまづいているかを実態把握し、支援・指導していく必要がある。

①基本的な内容の理解＝ヨーロッパの国々の位置を理解している段階

②資料を読み取る＝ヨーロッパの農業地域を示した資料から、その地域で栽培されているものを読み取る段階

③読み取った情報と既習内容を関連付けて考察する＝②をもとに、既習内容と関連付けながら、ヨーロッパの国々の食料自給率について考察する段階

大問8 (3) 中世の日本 <活用>

①趣旨 武士の成長について、複数の資料をもとに考察し、表現している。

②解答類型と反応率

	国東市	大分県
◎1 正答 (例) 地方では荘園支配者の館を、都では貴族を警備することにより、 力をつけ始めた。	12.6	18.6
△2 内容が不十分な場合	9.8	11.2
上記以外の解答	50.3	35.9
無解答 (無記入の場合)	27.3	34.3

正答率が一番低く、無回答率が一番高かった問題である。解答につながる情報の取り出しとそれらの結びつきが十分できていないことが考えられる。

複数の資料をもとに考察し、表現することについて、下記のどの段階でつまづいているかを実態把握し、支援・指導していく必要がある。

- ①それぞれの資料を読み取る段階＝地方の武士が荘園支配者の館を守っている。都の武士が皇族や貴族を警護している。
- ②2つの資料から共通点を見出す段階＝地方でも都でも、武士は権力をもつ者の警護をしている。
- ③共通点と既習内容と関連付けて考察する段階＝権力者を守り功績を挙げ、結びつくことで力をつけ始めるようになった。
- ④考察したことを適切に文章で表現する段階

3 改善のポイント（全体を通して）

- (1) 学習対象に対する関心を高め問題意識をもたせるために、予想したり学習活動を立てたりして、追究・解決方法を検討する場面の充実を図る。
- (2) 学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな課題を見いだしたりするために、学んだことを基に自らの生活をみつめたり社会生活に向けて生かす場面の充実を図る。
- (3) 課題の設定や発問の構成、地図や年表、統計など各種の資料の選定や効果的な活用、学んだ事象相互の関係を整理する活動を工夫する。
- (4) 複数の資料から読み取ったことを表に整理し、比較して見出した共通点を、既習内容と関連づけて考察し表現する活動をする時は、下記の①～④のどの段階でつまづいているのか実態把握し、支援・指導していく。
 - ① それぞれの資料を読み取る段階
 - ② 2つの資料から共通点を見出す段階
 - ③ 共通点と既習内容を関連付けて考察する段階
 - ④ 考察したことを適切に文章で表現する段階
- (5) グループ等による学習を通して、自分とは異なる視点から取り出した情報を得たり、自分の考えについて意見をもらったりする場面を設定する。
- (6) 自分の考えをまとめて記述する時間を保障する。
- (7) 1人1台端末を活用し、調べ学習やAIドリルに取り組めるように家庭学習の充実を図る。

【参考】

「社会の勉強が好きですか?」「社会の勉強が分かりますか?」

	国東市	大分県	全国
社会の勉強は好きですか（肯定的評価）	44.3	60.5	60.0
社会の勉強はわかりますか（肯定的評価）	66.1	69.2	64.3